

いよいよ5月2日(月)

旭中央病院新本館の 診療がスタート

診療圏人口100万人を擁し、東総地域の中核病院として、また旭市民の安心・安全を守る上で大きな役割を果たしている旭中央病院。再整備計画の下、平成21年から建設を進めていた新本館が完成し、5月2日(月)からいよいよ診療がスタートします。新本館の主な特徴と新しい外来診療システムを紹介します。

【新本館の概要】

鉄筋コンクリート造(免震構造)
12階建て
高さ58m、700床
建築面積9、487㎡、延床面積55、857㎡

新本館の主な特徴

【明るく開放的なエントランス】

1階エントランスから中央待合ホール、情報ラウンジへと続くホスピタルモールは、吹き抜けとガラスカーテンウォールにより、明るく開放的な雰囲気となっています。壁面には地元ゆかりの画家椎名保さんの作品「展望」と「黎明」が掲げられています。

【機能的で快適な病棟】

横に長かった患者の動線は、エレベーターを使用した縦方向



竣工式でのテープカット(4月11日)

の動線に切り替わり、移動時の負担を軽減するように配慮されています。また個室病室を多くするとともに、効率的に看護が行えるよう、廊下が短く見通しが良い「井」型の平面形になっています。自然光が差し込む病室や廊下の先端からは、東西南北それぞれの景色を満喫できます。12階には展望ラウンジがあり、外房の海をパノラマで見渡すことができます。

【先進的で高機能な手術室】

血管撮影装置を装備したハイブリット手術室など、さまざまな広さの手術室が15室あります。救命救急センターICU、血管撮影室が隣接して配置され、最先端高度医療の中核となっています。



絶景の12階展望ラウンジ



暖かい日の光が差し込む明るい個室病室



広く開放的な1階エントランスホール



「24時間応需の救命救急センター」
救急外来とCT、MRIをはじめとした高度医療設備や手術室が機能的に配置され、迅速な対応ができるようになっています。これまで同様、初期救急、二次救急、救命救急医療に365日、24時間対応します。

【災害時にも病院機能を維持】
建物全体を免震構造にすることで高い耐震性を確保し、大地震時にも平時と同じレベルの医療機能を継続して提供することができます。また院内のホール

などには、医療ガス設備などを備え、周辺のセンターと併せて大規模災害時に緊急救護所として使用することができます。

外来受付と会計方法が変わります
自動受付機や自動精算機の導入により、受け付けから支払い、薬の受け取りまで、スムーズに行うことができます。

問い合わせ先
旭中央病院事務部広報室
☎ 63・8111

【新しい外来受診の流れ】

